

成果報告書

(地域文化倶楽部創設支援事業)

一般社団法人北海道茶道文化振興協会

所在地	北海道札幌市	設立年	2019年
運営主体	一般社団法人北海道茶道文化振興協会		
事業目標	茶の湯が利休により大成されてから我が国に400年以上伝わる茶道の精神性を学ぶ。 茶道の中の作法・礼法を学び、日本的な所作の美しさを習得する。 茶道に包蔵されている総合芸術性を身に着け、芸術的感性を向上させる。 茶道の和を学び、伝統的コミュニケーションツールの習得及びコミュニケーション能力の向上も合わせて行う。 茶室がなくても茶道ができる認識を略盆点前・茶箱等で学ぶ。 嗅いだことのない香を嗅ぎ、香の聞くという感性を得る。 歌の世界がお茶や香によって創造可能なことを知る。		
きっかけ	北海道の茶道文化を振興、普及し、アイヌ文化と他文化との共生社会を茶の湯文化をもって構築するとともに、併せて会員の文化への理解や学ぶ者の教養を高め、我が国文化の高揚発展に寄与することを目的として設立		
団体・組織等の連携	教育機関、地域、その他組織等の連携について(事業計画書に記載したイメージ図等) 教育機関(小中高、支援学校等) 松栄堂札幌店(稽古場所提供)		
活動場所	主に活動を行っている場所 松栄堂札幌店		
活動概要	活動の概要説明を記載する。(定量的観点、定性的観点) 長年伝統文化を伝え、研究している第一線の文化的指導者を倶楽部の教員として招き、放課後の時間を通して、茶室がなくてもお盆を用いて手軽にできる、略点前を始まりとして、茶道文化に触れていただき、精神の修養を図ると共に、最終的には略点前の習得を目指し活動していました。 また、茶道文化に密接に関わる、香道や歌道も関連させ、茶道文化の奥深さ、日本文化の美しさを感じ取り、学びとっていただく活動となっていました。		

○本事業による成果

従来の活動の成果のみではなく、本事業を実施したことにより得られた成果について記載すること。(数値やグラフで示すものがあれば望ましい)

本事業により、得られた成果としてはまず最初に、我が国に400年以上にわたり、伝わる茶道文化の奥深さ、楽しさや美しさを知ってもらうことができた。従来の茶道教室では、茶室ありき茶道の普及活動、高価な茶道具を用いた普及活動が主たるものであり、稽古後等に自宅で復習などを行うことが環境的、経済的に困難な部分があったが、今回当法人が行った略点前では、日本に古来より伝わる見立ての技法を子供達に伝え、自宅にあるものを茶道具として見立てたり、茶道具として使用可能という判断ができるようになり、それらを使用してもいいという大きな発見が第一の成果として挙げられると思われる。

そして中には実際に家でお茶を点てる練習をしている子供達も見受けられた。

今回参加していただけた子供達からヒアリングを行った結果、ほぼ全員が「この倶楽部をやり続けたい！」「また来年もやってほしい！」「これからもお茶を続けたい！」「先生が好きだからお茶を続けたい！」などと積極的で好意的な感想をいただけた。

今回の活動を通して、日本の誇るべき茶道文化の素晴らしさを子供が自ずから気が付いたことで、これからの日本文化を継承していく伝承的人材確保の足掛かりになることができたと考えています。

○児童・生徒への指導に関する工夫

指導を行う上で独自で工夫していることについて記載すること。

生徒一人一人の点前ができるできないの進捗の具合に差があるため、できる限り発生しないように少人数に分けて、一人一人に寄り添う形で親身に稽古を行っていた。

困ってそうな生徒にはすぐに声をかけて、やり方やコツなどをわかりやすい言葉で伝えるとともに、一緒に所作をするなどのサポートし、茶道における難しい用語等も、一つ一つ丁寧に説明することで、生徒の理解の増進にもつながった。

また、長年茶道を教授されている指導者に稽古をしていただけるため、通常の部活動等では得られないであろう深い知識や感性を受けることができた。

これらの指導法の結果、生徒の全員がある程度、一人でも点前を進めれるように成長していった。

○運営上の工夫

運営上、工夫している点を記載する。

歴史のある家の出自を持ち、長年にわたり伝統文化である茶道を教え、研究しながらも、第一線で活躍されている指導者の方を招き、非常に質の高い内容を提供し、茶道のみならず、有職故実、他も道のつく伝統文化の教授もしていただいた。また茶道具についても稽古用ばかりではなく、指導者が所蔵する、歴史的、美術的にも価値の高い茶道具等を実際に触る、使用するなどの貴重な体験も惜しげもなく行っていただいた。

また、保護者との連絡を密に、行っていくために、LINEのグループ等も作成し、活用した。その他に当法人オリジナルの茶道教科書を発行し、配布した。

○継続的な運営に関する課題・展望

活動場所、指導者、活動経費、教育機関や地域等との連携等、様々な観点からの課題と展望を記載する。

課題

- ・地域文化倶楽部事業の各学校、教職員レベルでの認知の低さ及び連携
- ・活動場所の拡大
- ・新型コロナウイルス感染状況における活動指針
- ・稽古道具の貸し出しについて
- ・道具の運搬
- ・活動経費の不足

展望

- ・活動場所の拡大による更なる効果
- ・教員の負担軽減、部活動の質の向上
- ・生徒の相対的貧困問題の緩和
- ・積極性の確保

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

上記の課題をどのように解決し取り組んでいくのか、方針や計画を記載する。

【ここをしっかりと記載していただきますようお願いします。】

今回の広報において、地域文化倶楽部の認知レベルを向上するための学校、教職員、地域の代表者に理解を求める活動を積極的にし、地域文化倶楽部事業の成果等が可視化できるような研究及び調査の取り組みをし、それらを教職員に開示し、説明会、講演会等を開催していくことが必要。

また、北海道教育委員会、札幌市教育委員会にも協力を要請するために積極的活動をしていく。

当法人の活動の趣旨理解に向けたパンフレット等を作成し、理解を深めてもらう。

活動場所についてはもっと多くの地点に構えることで、さらに多くの生徒の参加する機会が増えることが見込める。また学校での活動が許可されるに伴い、部活動における教員の負担軽減にも繋がっていくと考えている。

事業期間中にまん延防止等重点措置が適用され、社会的観点から広報を行うことが非常に困難を極めた上、活動自体も行うことが支障が生じた為、そうした非常時の活動方針を具体的に決めていく必要がある。

子供たちの自宅での自主練習をさらに積極的に進めていくためには、稽古で使用する道具を貸し出すことも、考慮する必要がある。

また、稽古道具を人数分稽古場に保管して置くのは困難であり、公共交通機関でも荷物が多すぎて困難であるため、法人所有の車で運送する必要がある場合、助成の対象にする必要を検討が必要。

また、活動に際して、予算が不足し、持ち出しが大量に発生した為、予算の不足が懸念される。

参加者 (予定人数)	対象学年 小学1年～高校3年 15人 今後の予定人数 50～100人
募集方法	チラシ配布、ポスター掲示、学校での通知
指導者	外部からの茶道指導者 1名 内部からの茶道指導者 1名
移動手段	保護者による送迎
活動費用	活動に係る主な費用について記載する。 なし
スケジュール	年間スケジュール等を記載する。 月二回 第一、第三火曜日
保険加入等	なし

【活動の様子（写真添付）】

